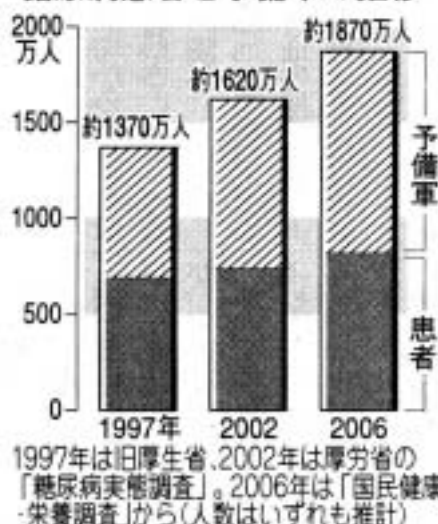


糖尿病患者

予備軍含め1870万人

糖尿病患者と予備軍の推移



06年厚労省調査

成人の5.6人に1人

250万人増、大半が女性

成人の糖尿病患者と予備軍の総人数は二〇〇六年時点で約千八百七十万人に上ると推計される。ことが三十日、厚生労働省の「〇六年国民健康・栄養調査」で分かった。

男性が八百八十万人、女性は九百九十万人で、五・六人に一人となる計。女性が二百万人と大半を占めた。

年代別の人口に占める割合は七十歳以上が34・8% (男性35・4%、女性34・3%)と最多で、若い世代ほど少なくなっている。

厚労省は「高齢化社会が急速に進んでいることが背景にあり、加えて国民の間で運動不足や高カロリー食生活が広がっていることが大きな要因」(生活習慣病対策室)と分析している。

全国的約三千六百世帯を無作為に抽出。四千二百九十六人の血液検査結果や調査票への回答を基に、成人全体の推計値を算出した。

それによると、血液中のヘモグロビン濃度が6・1%以上で、「糖尿病が強く疑われる人」(患者)が約八百二十万人、濃度が5・6%以上6・1%未満で「糖尿病の可能性を否定できない人」(予備軍)が約千五十万人だった。

70歳未満の年代別人口に占める割合は、六十代29・0%、五十代23・0%

四十代13・6%、三十代4・1%、二十代1・1%。〇二年よりも四十代男性が6・2%増えたほか、五十代女性が5・5%増、七十歳以上の女性も6・0%増となるなど中高年の増加が目立った。